

兄様の書齋

須賀川

服部貞子

兄様はおかへりか知らと、のぞいて見たがまだおかへりにならない様子、紫メリンスの座蒲團が冷たさうに机の前に置いてある、こそつとはいって見る。

まア此机の塵は……私がさして上げた水仙の花も大なしだわ。

机の上に積まれてあるのが、銀鈴、文庫、寮歌集、アラ西洋獨り占ひなぞも……それから勢揃ひ、金色夜叉が前編と續々編、繪端書ブックが一帖、北海の荒武者と亂暴な字の手紙が一通、忘れな草の繪端書がこれは西都のせゝらぎよりと、蒔繪の硯箱の上には紫インキが一壺、筆さしにはいづれも坊主になった筆ばかり二三本。

引き出しを開けて見ると巻紙やらカートやらが、ゴチャゴチャと、で何氣なしに片々のを開けて見るとピカリ！ アラツと驚いてよくよく見ると丸形の懐中鏡であつた。

猶よく見るとマア櫛やらコスメチックやら……

オホ、今度私をいぢめた時、みんな素ッぱ抜いてやるから、オヤ此指輪は私の指二本もは入りさうなこと！

本箱の上には緋ぢりのお蒲團に臥牛がゆつたりと。

中は皆學校の教科書ばかり。

正面には水車小屋の油繪が掛つて居る。これは兄様のお友達の手と、こちらの柱にはオーバーコートが例の通り丈々長々と掛けてある。

書棚の前に立つて、寫眞ブックを引出して見てもゆくと、なくなつたなくなつたと思つて居た千枝さんの半身のがチャーントこゝに、まあいつもつて來たのだらう、いゝから取つといてやらう、つひでにその傍の兄様の御制服制帽のも……

此方のまア ハイカラなこと！

此人はまた、角帽をはじめてかぶりましていふやうな……オホ、

オヤ！ 靴の音が……。

底本…「水野仙子全集」第五卷

初出…「女子文壇」明治三十九年四月

テキスト入力…小林 徹

公開…平成三十年二月二十四日

リンク…[水野仙子ホームページ](#)